

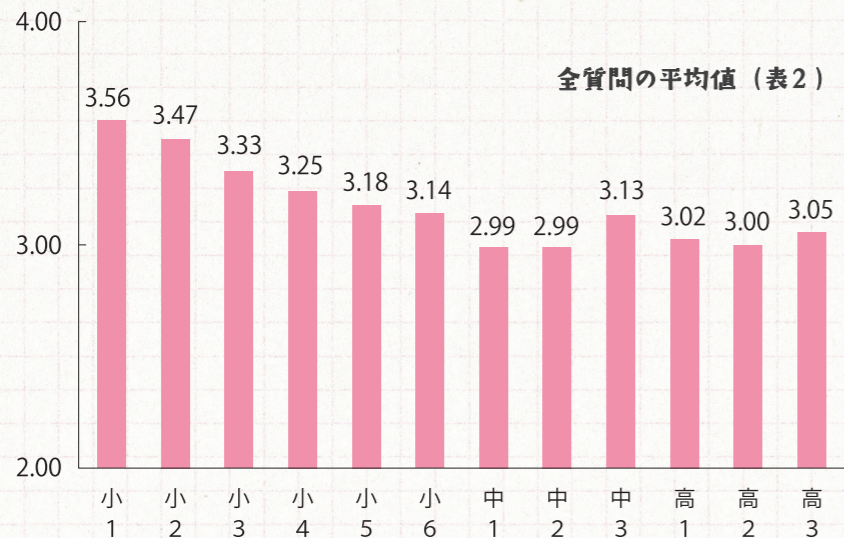
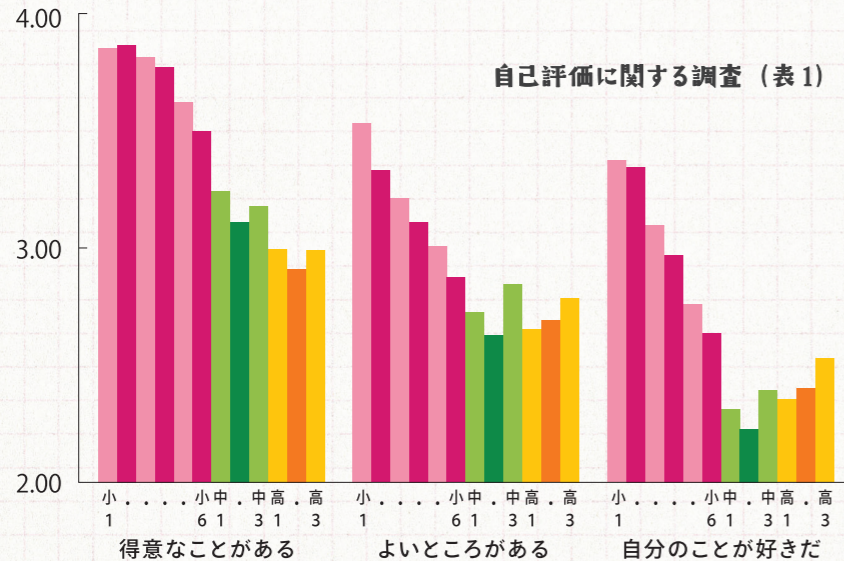
# 諸外国との比較からみる 子どもの現状



日本の子どもは、自分に対してどう思っているのか？ 諸外国と

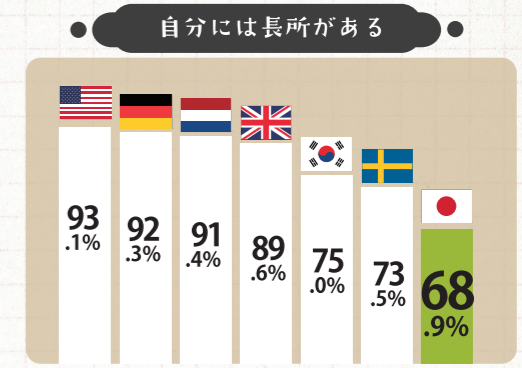
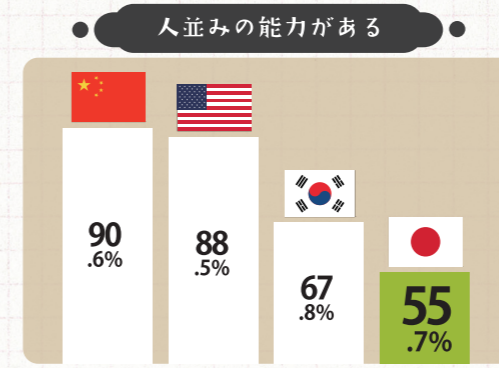
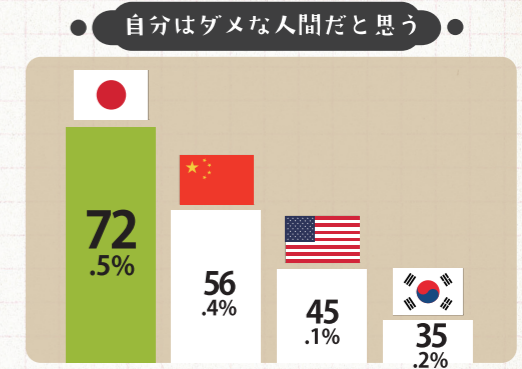
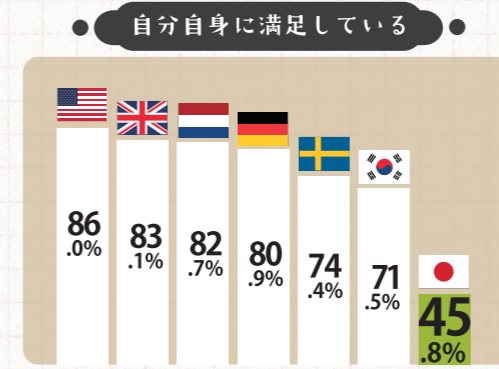
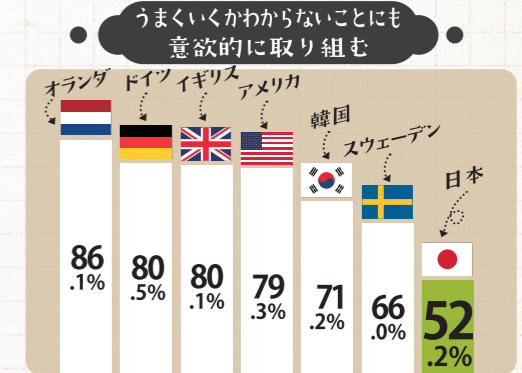
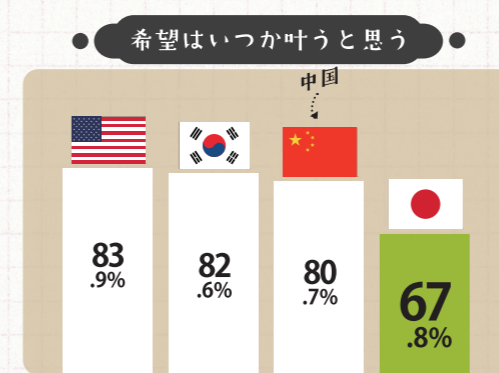
比較したデータを見ながら、今の現状について考えてみましょう。

2つのグラフは、都内公立小中学校・都立高等学校各10校の全生徒（約1万人）に対して自尊感情に関わる項目を調査したものです。（表2）のグラフは、「得意なことがある」「自分のことが好きだ」（表1）などを含む18項目全ての質問に対するの平均値（各学年4.00点満点）をあらわしています。



〈資料〉平成20年度『自尊感情に関する意識調査』 東京都教職員研修センター  
18問の質問項目に対して4件法（「4:そう思う」～「1:思わない」の4つの選択肢）で回答。  
グラフの数値は各学年4.00満点の平均値を示している。（※1.00から2.00の目盛りを省略）

自尊感情は、学年が進むにつれて低下する傾向にあります。特に小学校高学年から中学1年生の低下率が大きく、中学3年生で若干上向きになるものの、高校生になると再び低下しています。



〈資料〉平成25年度『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』内閣府 対象:日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンの満13～29歳の男女  
平成27年度『高校生の生活と意識に関する調査報告書』国立青少年教育振興機構 対象:日本、アメリカ、中国、韓国の高校生  
グラフの数値は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合を示している

特筆すべき点は、『自分はダメな人間だと思う』と答えた子が諸外国に比べて多いところです。  
『自分自身に満足している』ことに関しては、もっと出来るというストイックさの裏返しと読み解くことも出来るでしょう。  
しかし、『自分はダメな人間だと思う』という点については、自分をネガティブに見ていることがわかります。  
なにか失敗したとき、誰かと比較したとき、日本の子どもたちは自分を「ダメだ」と思うのです。落ち込んだとしても、「もう一度頑張ろう!」と思えば良いのですが、意欲も諸外国に比べて低い傾向があります。